

令和5年度(4月実施)全国学力・学習状況調査 結果報告

国語	全国値・埼玉県値を上回る。	算数	全国値・埼玉県値より僅かに下回る。
----	---------------	----	-------------------

〈 学力調査 〉

国語は埼玉県・全国ともに上回り、算数は埼玉県・全国
の値を僅かに下回る結果となりました。

国語では、例年の調査で課題となっていた「記述式」の問題での
改善が見られ、埼玉県・全国の平均正答率に比べ約3%高い数値と
なっていました。「書くこと」の領域についても、約4%高い結果となっ
ており、学年として重点的に取り組んできた成果が表れています。

一方、「短答式」の問題では埼玉県の値より約3%ほど低くなってお
り、「漢字を文の中で正しく使う」という項目に課題が見られました。また、「情報と情報との関係付けの仕
方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う」という項目にも課題が見られました。

算数では、領域別でも埼玉県・全国平均正答率の値よりも若干下回る結果となってしまいました。
特に、「変化と関係」の領域で全国平均との差があり、今回の調査の内容では「伴って変わる二つの数量が
比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答え方を式や言葉を用いて記述できる」
という内容に課題が見られました。

そんな中でも、「数と計算」「図形」「データの活用」の領域では、埼玉県・全国ともに上回る結果となっ
ており、中でも「台形の意味や性質について理解している」という内容では、埼玉県・全国を大きく上回る結果と
なっていました。基本となる問題について繰り返し学習した成果が見られます。

R5	平均正答率(%)		
	本校	埼玉 県	全 国
国語	70	68	67.2
算数	62	62	62.5

※本調査により測定できるのは、学力の一側面であることをご承知おきください。

■学校の取組

○朝の活動時間(8:25~8:40)に基礎学力の定着を図っています

基礎学力の定着を目的に週2回ほど朝の活動時間に取り組んでいます。全校、継続して取り組
んでいるので、子供たちも時間になったらすぐに問題を解き始めています。

月曜日 国語:「言葉サプリ」

(漢字やことわざなど語彙力を高める問題、コバトン問題集、復習プリント、eライブラリなど)

木曜日 算数:「算数トレーニング」

(計算問題や文章問題、コバトン問題集、復習プリント、eライブラリなど)

○算数の少人数指導できめ細かい指導を行っています

算数の授業では、学級担任に少人数指導担当教員を加え、2学級の場合は3クラスに分けて指導を行っ
たり、習熟度別に学力に合った指導を行ったり、児童一人一人に対してきめの細かい指導を可能にした
少人数指導を実施しています。

○読書タイムを設定しています

毎週金曜日の朝に「読書タイム」を設定しています。1~3年生までは図書ボランティアによる本の読み聞
かせ(対面での読み聞かせも再開)、4~6年生までは図書館や家庭にある本を各教室で読書していま
す。語彙を増やし、読解力を高めるには読書量を増やすことが最適です。全国や県の学力調査の問題は普
段学校で行っているワークテストとは形式が異なり、問題文を素早く的確に読み取っていかなければ最後
の問題まで到達できません。このことは無解答率の高さに相対していると思われます。今後読書タイムの
充実をさらに図っていきたいと考えています。

○「家庭学習の手引き」を配信し、家庭とともに学力向上に取り組んでいます

児童の望ましい学習習慣や生活習慣の形成に向けて、「家庭学習の手引き」を作成し、家庭と連携を図
った取組を行っています。家庭学習のねらいや方法、児童へのかかわり方はもとより、学習準備や運動な
ど、生活習慣の形成に係る内容等を記載するなど特色ある手引を作成していますが、定着のための取り
組み方に差があり、考慮すべき点となっています。

〈 質問紙調査 〉

【生活習慣】

質問事項	選 択 肢				
	している	どちらかとい えば、している	あまりしてい ない	全くしてい ない	
朝食を毎日食べていますか	87.1	10.0	2.9	0	本校 (%)
	83.7	10.2	4.6	1.5	全国 (%)
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	42.9	45.7	11.4	0	本校 (%)
	38.1	42.9	15.7	3.1	全国 (%)
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	55.7	40.0	4.3	0	本校 (%)
	55.1	35.4	7.9	1.5	全国 (%)

※ 生活のリズムを整えることはとても大切です。昨年度の本校児童と比較し、「朝食を毎日食べている」と答えた児童が5%以上少なくなっていました。また、「毎日同じくらいの時刻に起きている」と答えた児童が10%以上少なくなっていました。朝食は、脳や体のエネルギー源になります。朝食をしっかり摂るためにも、起きる時刻を決め、不規則にならないよう、児童自身にも意識させることが必要です。

【家庭学習】

質問事項	よくしている	ときどきしている	あまりしてい ない	全くしてい ない	
家で自分で計画を立てて勉強していますか(学校の授業の予習や復習を含む)	45.7	42.9	8.6	2.9	本校 (%)
	28.7	42.0	22.1	7.1	全国 (%)

質問事項	3時間 以上	2時間 以上	1時間 以上	30分 以上	30分よ り少ない	全くしな い	
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	11.4	14.3	35.7	34.3	4.3	0	本校 (%)
	11.8	13.8	31.5	26.9	11.4	4.6	全国 (%)

質問事項	3時間 以上	2時間 以上	1時間 以上	30分 以上	30分よ り少ない	全くしな い	
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	1.4	4.3	10.0	37.1	40.0	7.1	本校 (%)
	7.9	5.4	11.4	27.8	33.7	13.8	全国 (%)

※ 「家で自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童が約46%と、全国値を大きく上回っていました。「ときどきしている」の児童と合わせると、約9割の児童が計画を立てて勉強する習慣が身に付いてきているということがわかります。

家に帰ってからの勉強時間は「1時間以上」の児童が約61%でした。また、学校のない日(土曜日・日曜日)に「30分より少ない、全くしない」と答えた児童が47.1%と半数近くの児童に上ることがわかりました。

本校「家庭学習の手引き」に明記されている「宿題+自分で取り組む学習を習慣化する」の意識を持ち、平日だけでなく、休みの日にも学習に集中できる環境を整え、取り組んでほしいと思います。

【読書週間】

質問事項	3時間以上	2時間以上	1時間以上	30分以上	30分より少ない	全くしない	
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	14.3	12.9	15.7	20.0	15.7	21.4	本校（%）
	7.6	10.9	18.8	22.7	15.4	24.5	全国（%）

質問事項	ほぼ毎日	週に1～3回	月に1～3回	ほとんど、または、全く	
新聞を読んでいますか	2.9	8.6	21.4	67.1	本校（%）
	4.3	8.3	14.0	73.3	全国（%）

※ 家に帰ってからの読書時間は、全体的に昨年度の調査よりも高くなっています。特に、「3時間以上」と答えた児童は約10%多くなっていました。「新聞を読んでいますか」においては、約7割の児童が「ほとんど、または、全く読まない」と答えています。インターネットの文を読むという機会が増えているかもしれませんが、信頼の置けるまとまった文章を読む経験を積み重ねることは、思考を育む上でとても大切です。また、文章に多く触れている児童ほど、正答率が高くなっています。ただ単に「読みなさい」というのではなく、本などを読みたくなる環境を整えていけると良いです。

【自己肯定感等】

質問事項	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
学校に行くのは楽しいと思いますか	48.6	30.0	17.1	4.3	本校（%）
	49.8	35.5	9.9	4.7	全国（%）

※ 学校に行くのが「楽しい、どちらかといえば楽しい」と答えた児童は約8割という結果が出ていました。しかし、約2割の児童が「どちらかといえば当てはまらない、当てはまらない」と答えています。学校としては、楽しい授業・分かる授業の展開を目指すとともに、学校でしかできない経験を積ませることや友達との関わりを通して、学校が「楽しい」と思える場所になるよう、工夫・改善に努めていきたいと思っています。

質問事項	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
自分には、よいところがあると思いますか	50.0	34.3	8.6	7.1	本校（%）
	42.6	40.9	11.4	5.1	全国（%）

※ 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の児童は84.3%という結果となりました。自分自身のよさを認め、そして相手からも認められていると感じている児童は正答率が高い傾向にあると言われています。自尊心を育み、毎日のやる気に繋げていくことが求められます。2割弱の児童が、自尊心が低い結果となっています。「子供たちを育てていくのは家庭・学校・地域である」ということを意識して、大人たちが一人一人の子供たちの良さを引き出していきましょう。

質問事項	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	82.9	15.7	0	0	本校（%）
	82.6	14.3	2.3	0.8	全国（%）

※ 「いじめは絶対にいけないこと」という意識が子供たちに身に付いています。ふざけやからかいなどもいじめにつながることも含め、相手を思いやる気持ちをさらに育てていくことが大切です。「どんな理由があろうといじめは絶対に許されない」という考えを意識できるようにしていきたいです。